

交通 評論



富士山頂は火口を囲んでいくつかのピークを持つ丘が連なっている。その中で一番高い剣ヶ峰に富士山測候所がへばりつくように建っている。

東に下ると浅間大社があるが、そのさきの東安河原に旧佐藤小屋という岩室があった。1930年(昭和5年)に佐藤順一が篤志家の援助で建て、初めて厳冬の気象観測に成功した小屋で、それを元に、1932年には第2極年観測を行い、引き続き、富士山測候所の有人通年観測が72年間続けられたという由緒ある建物であったが、測候所が

剣ヶ峰に移設されて以来ほとんど使用されず、今年取り壊された。富士山測候所の成立における佐藤順一の仕事は、越冬観測の先駆者・野中到、千代子夫妻の壮絶な秋冬観測に比べて地味なものであるが、それまで不可能だと信じられていた「常識」を覆すもので観測史上意味深い。

佐藤小屋

土器屋 由紀子

夢はその後72年間の有人観測に引き継がれ、1964年には富士山レーダー建設で、台風の砦(とのび)として、台風の被害から多く

「所」をつくり出す羽目になつてしまったのである。最近では「富士山頂でNPOが何かやっているらしい」ということが知られるようになり、ウィキペディアで「富士山測候所」と引くと、最後に当NPO法人の夏期管理が記載されている。研究成果は世界的な論文誌にも載るようになった。

1931年、定年間の佐藤順一が故山階宮(やましのみや)との約束を果たすべく、強力(ごうりき)の梶房吉と2人で1ヶ月の厳冬の観測を成功させたことよって、富士山の気象観測が公式に認められた。

「富士山測候所」と引くと、最後に当NPO法人の夏期管理が記載されている。研究成果は世界的な論文誌にも載るようになった。

1931年、定年間の佐藤順一が故山階宮(やましのみや)との約束を果たすべく、強力(ごうりき)の梶房吉と2人で1ヶ月の厳冬の観測を成功させたことよって、富士山の気象観測が公式に認められた。

「富士山測候所」と引くと、最後に当NPO法人の夏期管理が記載されている。研究成果は世界的な論文誌にも載るようになった。

1931年、定年間の佐藤順一が故山階宮(やましのみや)との約束を果たすべく、強力(ごうりき)の梶房吉と2人で1ヶ月の厳冬の観測を成功させたことよって、富士山の気象観測が公式に認められた。

「富士山測候所」と引くと、最後に当NPO法人の夏期管理が記載されている。研究成果は世界的な論文誌にも載るようになった。

《お詫びと訂正》
本資料の中に誤りが2カ所ありましたので、お詫び申し上げますとともに、訂正させていただきます。
(2022年10月16日 筆者)

* 1 第1段10行目
(誤)1930年(昭和5年)
(正)1927年(昭和2年)

* 2 第2段13行目
(誤)1931年
(正)1930年(昭和5年)

(江戸川大学名誉教授)